

新漁業管理制度推進情報提供事業

堀 恭子・太田 洋志・野間 昌平・寺田 雅彦

玄海地区沿岸漁業で漁獲される資源管理対象魚種等（重要水産資源）について、生物情報や操業情報を収集分析し、資源管理指針・方針及び資源管理計画・協定の見直し・策定のため、関係者に情報提供した。

方 法

1. 漁況情報収集

マアジ、マサバ、マイワシ等の重要浮魚類の漁況を把握するため、唐津港（唐津港まき網市場と唐津沿岸物市場）取扱量、主要定置網による水揚量について情報収集した。

なお、唐津港取扱量のうち、「県内」は本県漁業者による水揚量、「県外」は他の市場等からの陸送物に、県外漁業者による水揚量を加えたものとした。

また、「主要定置網」とは玄海地区を代表する定置網3カ統とした。

2. 漁海況情報の提供

令和6年4月から令和7年3月までの漁況情報収集結果及び海況調査結果を取りまとめ、漁海況情報として、漁業協同組合等の関係機関に提供した。

結 果

1. 漁況情報収集

(1) マアジ

唐津港取扱量は5,753トンで、前年比89%、平年比（平成31年度～令和5年度の5年間平均値、以下同じ）80%であった。県内水揚量は183トンで、前年比51%、平年比57%であった。主要定置網による水揚量は59トンで、前年比34%、平年比35%であった（図1）。

(2) マサバ

唐津港取扱量は10,284トンで、前年比110%、平年比179%であった。県内漁獲量は59トンで、前年比90%、平年比75%であった。定置網による水揚量は44トンで、前年比90%、平年比75%であった（図2）。

(3) マイワシ

唐津港取扱量は814トンで、前年比72%、平年比123%であった。県内水揚量は0.4トンで、前年比5%、平年比9%であった。主要定置網による水揚量は0.3トンで、前年比5%、平年比8%であった（図3）。

(4) ウルメイワシ

県内水揚量は0.3トンで、前年比27%、平年比14%であった。主要定置網による水揚量は0.3トンで、前年比59%、平年比15%であった（図4）。

(5) カタクチイワシ

県内水揚量は1トンで、前年比62%、平年比8%であった。主要定置網による水揚量は1トンで、前年比64%、平年比8%であった。（図5）。

(6) ケンサキイカ

県内水揚量は23トンで、前年比71%、平年比46%であった。主要定置網による水揚量は1トンで、前年比54%、平年比31%であった（図6）。

(7) プリ

主要定置網による水揚量は27トンで、前年比252%、平年比112%であった（図7）。

2. 漁海況情報の提供

令和6年4月から令和7年3月にかけて、各月1回、計12回、漁海況情報を発行した。

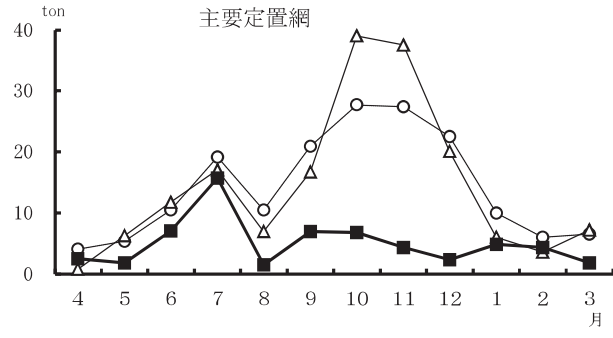
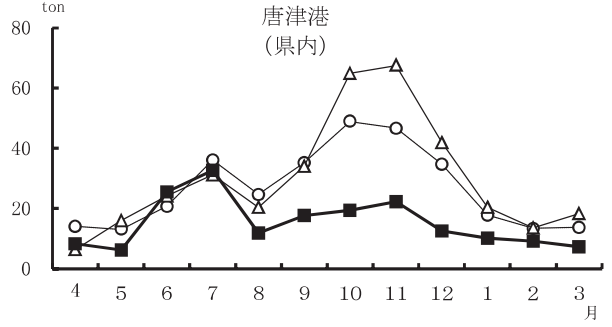
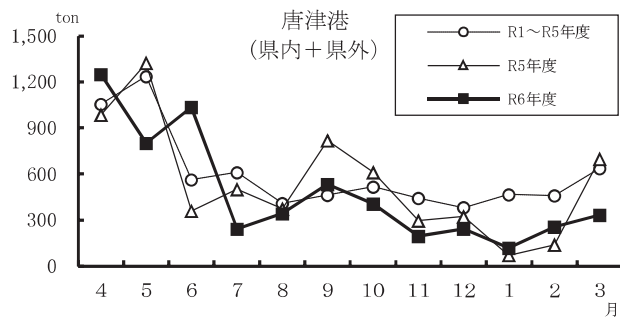


図1 マアジ水揚量の推移

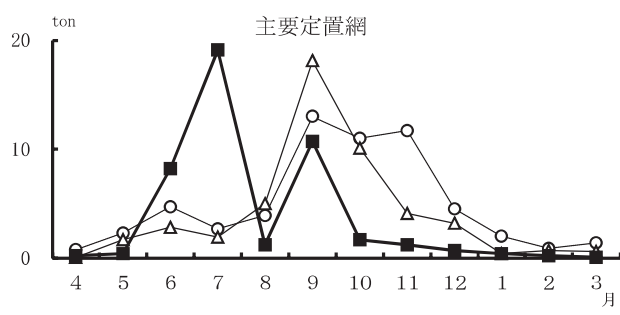
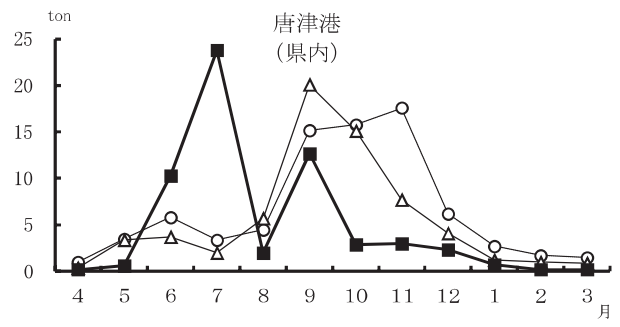
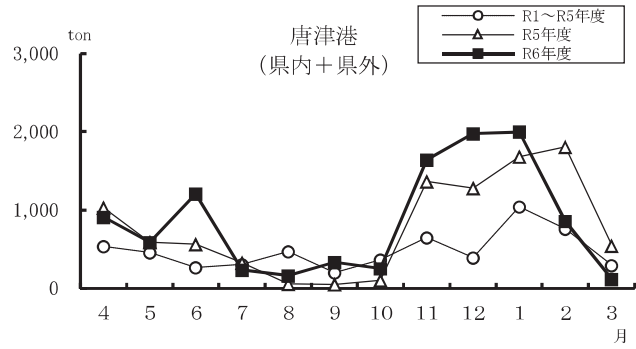


図2 マサバ水揚量の推移

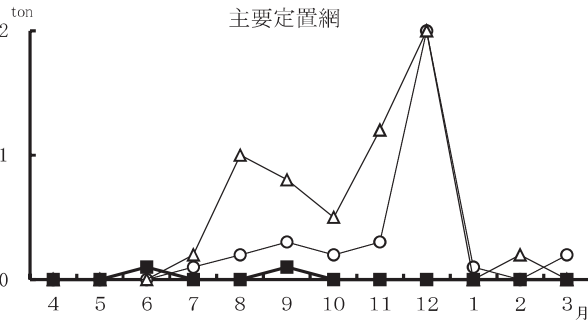
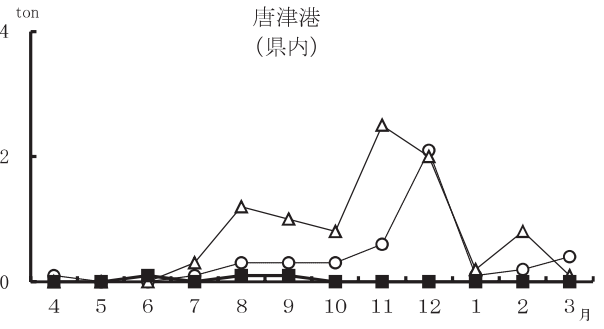
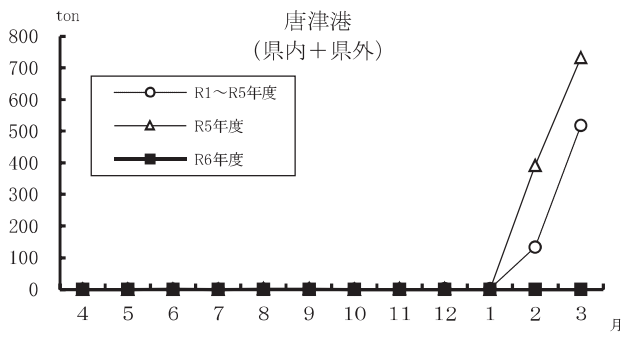


図3 マイワシ水揚量の推移

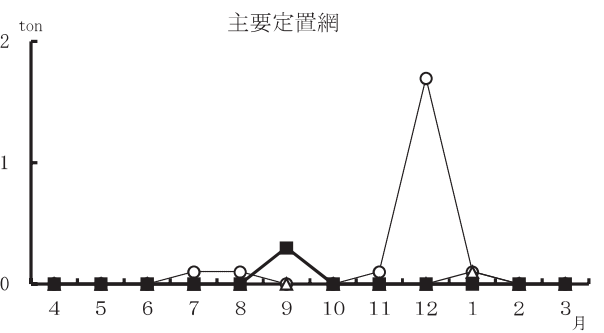
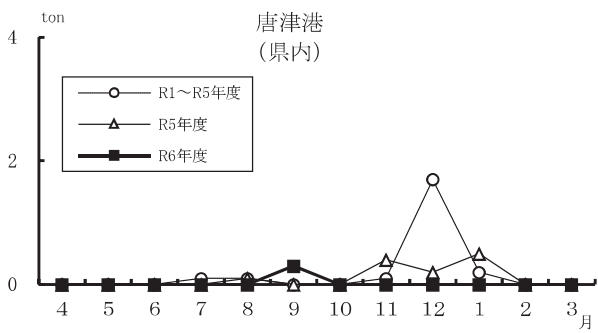


図4 ウルメイワシ水揚量の推移

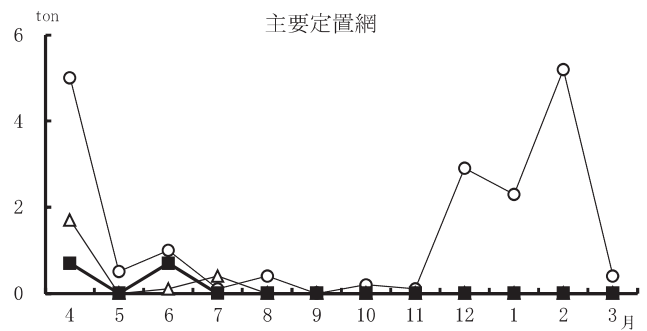
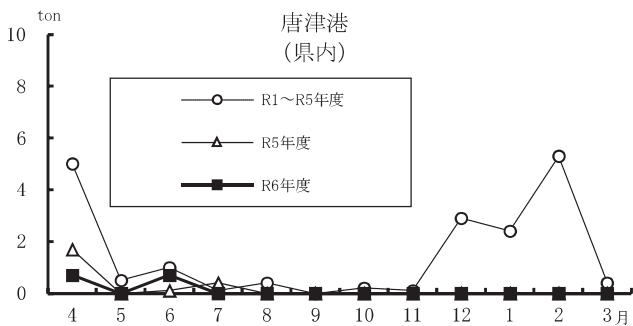


図5 カタクチイワシ水揚量の推移

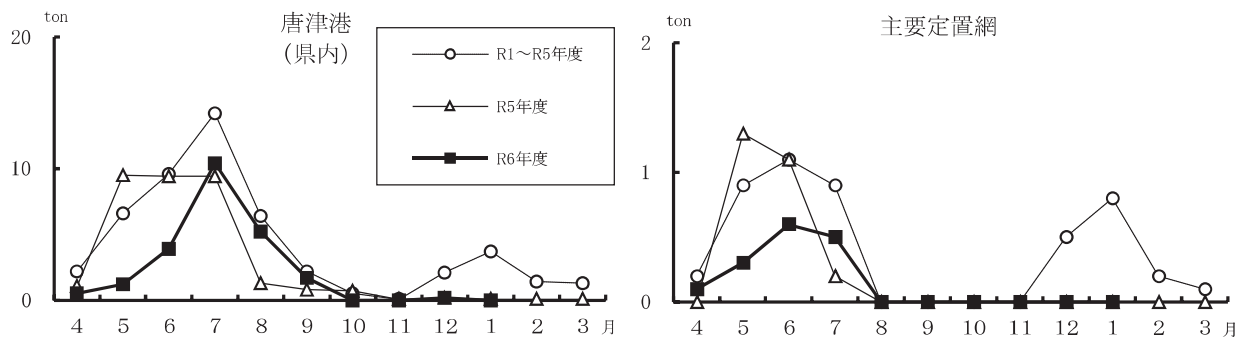


図6 ケンサキイカ水揚量の推移

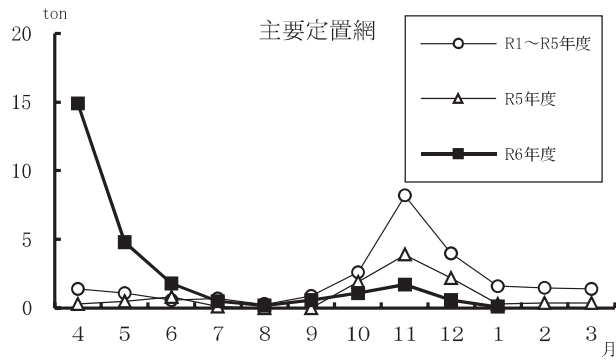


図7 ブリ水揚量の推移